

情報公開文書書式

研究課題名	回復期リハビリテーション病棟の脳血管疾患患者に対する個別療法・モーニングケアの効果に関する研究
研究責任者	後藤伸介
所属	やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 (一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会 保険調査委員会)
研究期間	承認日 ~ 2026年3月31日
研究目的と意義	<p>令和6年度診療報酬改定により脳血管疾患等リハビリテーション料は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等によるものに区分されました。それに伴い本協会の実態調査も各療法の実施単位数が調査されることとなり、それらの実施とADL改善度の関係を分析することが可能となりました。しかし、それらについて十分な検討はされていません。</p> <p>そこで、回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者に対する各療法の実施単位数等の違いがFIM利得、入院日数、自宅退院率に影響を及ぼすかを調べることを本研究の目的とします。</p>
研究内容	<p>●対象となるデータ 回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査（2024年実施）の退院患者データ</p> <p>●利用する情報 年齢、性別、入棟時発症後日数、FIM運動・認知（入棟時、退棟時、利得、効率）、入院日数、退院先、患者あたりモーニングケア人数、理学療法・作業療法・言語聴覚療法の患者1日あたり実施単位数、入院時訪問指導、等</p> <p>●研究方法 退院患者データから、入棟時FIMに応じてADL重症度を軽度、中度、重度に群化し、目的変数にFIM利得および入院日数を設定し、説明変数に年齢、入棟時発症後日数、入棟時訪問指導、各療法の単位数、モーニングケア時の患者あたり看護・介護職と療法士の各合計人数を設定し、ステップワイズ重回帰分析およびBonferroni検定を行う。加えて、目的変数を自宅退院、説明変数を上記と同じ変数とした多重ロジスティック回帰分析を行う。</p>
倫理的配慮および個人情報の取り扱い	本研究は病院、病棟に関する情報と既に匿名化されている患者情報を用いた研究であり、病院・病棟や個人を特定できない状態のデータを解析します。研究の実施に際しては「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、患者の人権の保護に努めます。
問い合わせ先	所属：特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 後藤伸介 住所：〒923-8551 石川県小松市八幡イ12-7 電話：0761 (47) 1212 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）

情報公開文書書式

研究課題名	回復期リハビリテーション病棟の脳血管疾患患者に対する退院支援の効果に関する研究
研究責任者	後藤伸介
所属	やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 (一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会 保険調査委員会)
研究期間	承認日 ~ 2026年3月31日
研究目的と意義	回復期リハビリテーション病棟における円滑な在宅復帰には退院前訪問指導や退院前カンファレンス等の適切な退院支援が必要ですが、その効果についての検討は十分とは言えません。 そこで、脳血管疾患患者に対する退院支援関連業務の実施が自宅退院率等に効果があるかを調べることを本研究の目的とします。
研究内容	●対象となるデータ 回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査（2024年実施）の退院患者データ
	●利用する情報 年齢、性別、入棟時発症後日数、FIM運動・認知（入棟時、退棟時、利得、効率）、入院日数、退院先、入院時訪問指導・退院時訪問指導・退院前カンファレンスの実施の有無、等
	●研究方法 退院支援関連業務として入院時訪問指導、退院時訪問指導、退院前カンファレンスの実施者数を集計し、病院単位での平均業務実施率を算出する。そして、それと病院の平均自宅退院率との相関関係を調べる。また、退院支援関連業務の実施率が高い病院と低い病院の自宅退院率の平均値の差を t 検定を用いて調べる。
倫理的配慮および個人情報の取り扱い	本研究は病院、病棟に関する情報と既に匿名化されている患者情報を用いた研究であり、病院・病棟や個人を特定できない状態のデータを解析します。研究の実施に際しては「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、患者の人権の保護に努めます。
問い合わせ先	所属：特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 後藤伸介 住所：〒923-8551 石川県小松市八幡イ12-7 電話：0761 (47) 1212 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）